

平成 31 年度 入学式 学長式辞

今年は雪も少なく、ここ越前の里に、春もころなしか早くおとずれました。キャンパスの裏山には鶯の声がさえずりわたっています。そんな穏やかな今日、越前市市長 奈良俊幸様、越前市議会議長 川崎悟司(さとし)様をはじめ多数のご来賓の方々のご臨席を賜り、平成 31 年度の仁愛大学ならびに仁愛大学大学院の入学式が挙行できますことは、本学教職員一同の大きな喜びであります。

人間学部心理学科 85 名、コミュニケーション学科 79 名、人間生活学部健康栄養学科 72 名、子ども教育学科 51 名、人間学研究科臨床心理学専攻 8 名の新たに仁愛大学の学生となられた皆さん、ご入学まことにおめでとうございます。また、保護者の方々にも、心よりお慶び申し上げます。併せて、今後の本学の教育・研究・地域連携などの社会活動につきまして、一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、本学は「仁愛」という大学名が示す通り、『仏説無量寿経』の「慈恵(じえ)博く施し、仁愛兼ねて濟う」ということを建学の精神にしております。平易に言えば、「互いに『いのち』を尊び、共生社会の実現を目指し(仁愛)、世を照らす灯となって、それを実践する(兼濟)」ということです。そして、それを実践された親鸞聖人の人間観を教育の根本にしております。その親鸞に学んだ明治の先人に井上円了という人がいます。彼は、新潟県出身の浄土真宗の僧侶で哲学館、のちの東洋大学を創設した人です。彼のことばに「諸学の基礎は哲学にあり」ということばがあります。諸学、つまり、あらゆる学問の基礎には哲学がなければならないという意味です。さらに詳細に言えば、彼は浄土真宗の僧侶ですから、意図するところは仏教哲学という意味です。実学、つまり、実用的な学問が好まれる昨今、改めて、先人のこの言葉に耳を傾けたいと思います。私事で恐縮ですが、私は、仏教学と生命倫理学という学問分野を研究しております。本学に赴任する前に、名古屋の大学の医学部で生命倫理の授業を担当し、生命倫理審査委員や遺伝子やヒト・ゲノム、バイオの研究倫理審査委員をしていました。脳死・臓器移植、遺伝子治療、生殖補助医療、再生医療、代理出産・代理母、ヒトと動物の合成であるキメラ作成など医療の技術は日進月歩です。しかし、それをすぐさま実施していいかどうかは別問題です。自然の摂理を踏み外していいかどうか、人間が「神の手」を持ってもいいかどうか。人権が護られているかどうか、障害を持つ人に不安を与えていないか。医学の価値観だけでは限界です。その技術によって取り返しのつかないことが起きて人類は滅びるかもしれません。その傲慢さがそうさせてしまうのです。その技術を使うか使わないかを考える哲学や倫理・宗教が必要です。あらゆる分野において同じことが言えるのです。

すでに、世は AI 技術、つまり、人工知能に取って代わられる時代になりました。人が機械に使われる時代になりそうです。その意味でも、それを使うためには哲学や倫理・宗教がいよいよ重要となってくるのです。人間としての在り方を問い、自然や神に畏敬の念をもち、謙虚な態度が求められるのです。

本学では、一年次に「仏教の人間観」という全学共通科目を学んでいただきます。建学の精神を具体的に学ぶ授業です。どんな職業に就こうとも、必要とされる高度な教養です。真理の前に謙虚にひざまずき、傲慢さを恥じる態度こそ、本学の目指す人間像です。皆さんが、それぞれの分野の高度な専門的知識とスキルを修得するとともに、心の通った人間性を培う「ソールメイキングキャンパス」、それが本学です。正門に「美しい世を拓く灯となるために」と書かれています。「美しい世」とは、そのような心の通った「人間性や豊かな世」という意味です。

最後になりますが、本学におきましては、教育・研究はもちろん、「地域共創センター」を中心に、全学的に地域連携を推進する体制を取っております。多文化共生、駅前サテライトなど、これまでの先輩諸君の活動は、インターネットや新聞、テレビなどのメディアをとおして広く伝えられております。これらの活動をとおして、多様な人間関係を学び、また企画力、マネジメント能力を養うことができます。これらの成果によって本学の就職率は、近年、全国の大学でトップレベルです。

本学は地元地域との関係が密接な大学です。特に越前市とは、多文化共生事業などを行っております。今後、地域のご支援をいただき、連携事業をさらに進めてまいります。越前市、福井県のご協力に感謝するとともに、諸君が本学で充実したキャンパスライフを送り、立派に成長されますことと、一層、ご活躍されますことを念じまして式辞といたします。

平成 31 年 4 月 3 日
仁愛大学 学長 田代俊孝